

**平成20年度 第2回福岡空港調査連絡調整会議  
議事録**

1 日 時 平成21年1月27日(火) 16:00～16:45

2 場 所 ホテルレガロ福岡 3階 レガロホール

3 出席者

・構成員

国土交通省九州地方整備局長	岡本 博
(代理出席 九州地方整備局副局長)	佐藤 孝夫)
国土交通省大阪航空局長	片平 和夫
福岡県副知事	中島 孝之
福岡市副市長	高田 洋征

・幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	梶原 康之
国土交通省大阪航空局空港部長	傍士 清志
福岡県企画・地域振興部理事兼空港対策局長	金子 英幸
福岡市総務企画局理事	松本 友行

・国土交通省航空局空港部からの参加

国土交通省航空局空港部計画課長	干山 善幸
-----------------	-------

4 議事

(1)開会

事務局：

それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成20年度第2回福岡空港調査連絡調整会議を始めさせていただきます。

まず初めに、出席者の皆様を紹介させていただきます。

正面からでございますけれども、国土交通省九州地方整備局、佐藤孝夫副局長です。

同じく、国土交通省大阪航空局、片平和夫局長です。

福岡県、中島孝之副知事です。

福岡市、高田洋征副市長です。

以上、4名の本会議メンバーに加えまして、本日は国土交通省航空局空港部、干山善幸計画課長にご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いたします。

次に、本日の配付資料を確認させていただきます。

配付資料一覧というのをつけてございますけれども、このとおりでございます。まず、本日の式次第、それから出席者名簿、それから配席図、それから資料1といたしまして「福岡空港の総合的な調査に係るPI(ステップ4)について」、それから別添1といたしまして「福岡空港の総合的な調査に係るPI(ステップ4)実施報告書」、別添2といたしまし

て「福岡空港の総合的な調査に係るPI（ステップ4）の実施結果に関する評価等について」、それから、参考資料といたしまして「PIの実施状況について」、それから「PI（ステップ4）の実施報告書（参考資料）」を添付させていただいております。資料は以上でございます。

ここで、マスコミの皆様をお願いいたします。議事進行の関係上、テレビカメラの撮影は冒頭の事務局説明までとさせていただきます。よろしくご協力をお願いいたします。

それでは、九州地方整備局の佐藤副局長に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

## **(2)議事**

### **佐藤副局長：**

それでは、議事進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事でございますけれども、先ほどの議事次第にありましたとおり、福岡空港の総合的な調査に係るPI（ステップ4）について審議することになっております。

それでは、早速でございますけれども、次第に沿って進めさせていただきたいと思っておりますので、資料1の説明をお願いいたします。

### **【資料1 福岡空港の総合的な調査に係るPI(ステップ4)について】**

#### **幹事：**

それでは、資料1につきましてご説明を申し上げます。

資料1につきましては、福岡空港の総合的な調査に係るPI（ステップ4）についてでありますけれども、これは先般の福岡空港調査PI有識者委員会のPI活動についての評価を受けたわけでございますが、これを受けて、今回のステップ4をどうするかということについての資料ということになるわけでございます。

別添1の実施報告書については、12月25日までの意見収集活動や意見の取りまとめにつきまして、1月19日に、監視助言機関であるところの福岡空港調査PI有識者委員会に提出をさせていただいたものでございます。

福岡空港調査PI有識者委員会の評価につきましては、後ほど説明をさせていただきますけれども、最終的には今回のPIについて目標を達成したという評価をいただいたところでございます。今回はこれを受けまして、福岡空港調査連絡調整会議として最終的にステップ4を終了するかどうかにつきまして、ご議論をお願いいたしたいと思っております。

まず、別添1は実施報告書でございます。実施報告書につきましては、本編と、それから、ちょっと分厚い別添ファイルがございますけれども、これは参考資料という構成になっております。

簡単に要点のみ、ご説明をさせていただきますと、まず、実施報告書の内容につきましては大きく三つございます。一つ目は、ステップ4の活動内容。それから、二つ目は、PI活動に寄せられたご意見をまとめたもの。三つ目は、これらのPI活動を分析して評価したものです。こういった構成になっているところでございます。市民の皆様にお知りいただきたいということで数々の活動をやってまいったわけでございますけれども、最終的には

お知りいただき、ご認識をいただくという目標を達成できたのではないかといった結論をまとめさせていただいているものでございます。

それでは、別添1につきまして、簡単にご説明をさせていただきます。

2枚めくっていただきますと、1ページが出てまいります。1ページから4ページまでは、今回のステップ4の活動の内容を載せているところでございます。これまでのPI活動と同様に、周知広報活動、情報提供、意見収集活動、こういった活動を行ってきたところでございます。

今回の活動でまず挙げるとすれば、レポートの配布部数、これをステップ3のときと比べまして、2万5,000部増やして10万部を用意して配布したということでございます。

広報全般に関しまして申しますと、県や市の広報誌でございますとか、あるいはチラシ、テレビ、ラジオでの広告などを実施しております。より広く周知を図るということを目的といたしまして、昨年度1週間に56回実施をいたしましたテレビCMを、今回は2週間に分けまして、10月初めと11月の初めにそれぞれ1週間ずつ、合計で67回実施したところでございます。また、県の広報誌でございます福岡県だよりでは、特集3ページを設けまして、約200万部の配布を行ったということでございます。また、報道機関の皆様にも数多く報道していただき、これをあわせまして、今回のPI活動のステップ4につきましては、多くの方々に周知をいただいたのではないかとこのように考えておるところでございます。

PIの具体的な催しという観点から申し上げますと、今回は初めて市民の皆様相互で意見交換をしていただく市民意見交換会を1回実施させていただいたところでございます。また、それ以外の催しにつきましても、オープンハウスの開催回数を増加し、また、なるべく多くの皆様に来ていただけるようにと休日での集中開催といったことに配慮をしたということでございます。また、要望に従いましてこちらのほうから説明に伺うという出前説明会でございますが、こちら、前回ステップ3のときと比較いたしまして40回増、計65回開催をしたということになったわけでございます。その結果といたしまして、各種催しへ約1万3,000人の方に参加をいただいております。それから、同様に、情報はホームページにも掲載をしたわけでございますけれども、ホームページにも1万3,000件のアクセスをいただいたということでございます。

以上が、1ページから4ページ、どんなことを実施したかということの概要でございます。

もう1枚めくっていただきまして、5ページからは、寄せられたご意見の分析ということでございます。5ページから8ページまでは、ご意見を寄せていただいた方、これは8,018名になるわけでございますが、この中で、まず、選択式で属性を伺っておりますので、その属性につきまして整理をさせていただいたものでございます。これを見ますと、例えば、5ページの図2では年齢とございますけれども、若い方から70代以上の方まで、かなり満遍なく多くの層からご意見をいただいたということがわかるわけでございます。

それから、ちょっとまた飛んでいただきまして、1枚めくっていただきまして7ページでございますが、7ページの、これは、PIレポート自体についてわかりやすさを伺ったものでございますが、「わかりやすかった」あるいは「普通」と書いていただいた方を合計いたしますと、おおむね9割の方が肯定的な評価をしてくださったという結果になっているわけでございます。

8ページでございますが、問3のところにとあるわけでございますけれども、滑走路増設案、新空港案につきまして、長所短所などの特徴、こういったものを今回のレポートで書かせていただいたわけでございますけれども、これらにつきまして、「わかった」あるいは「概ねわかった」とされた方が約8割いらっしゃったということで、これらの点につきましてご理解をいただいたと評価できるのではないかと考えているわけでございます。

また、同じように、でございますが、将来の方向性選択のポイントということで、これも資料の中に書かせていただいたことについての評価でございますが、7割を超える方が「わかった」「概ねわかった」ということで評価をしていいのではないかと考えております。

1枚めくっていただきまして、9ページには、今度は記述式のご意見をいただいておりますが、こういったものを類型化して件数を整理しております、8,018名の方から合計で2万8,557件のさまざまなご意見をいただいたところでございます。

以下では、そのご意見に対する考え方などを整理したものでございます。

10ページ以降は、整理をずっとしているわけでございますが、ちょっとめくっていただきまして、具体的な分析につきましては、26ページの参考3以降に書いてございますので、そちらをご覧くださいと思っております。

ここで、意見の分類内容ということでございます。これは、抜本方策としてステップ4のレポートの中で提示いたしました、滑走路増設と新空港という、その二つの考え方につきましての意見の傾向を整理したものでございます。寄せられたご意見は種々さまざまでございますけれども、各将来方策につきまして、積極的なご意見、消極的なご意見、あるいは、なかなか明確に分類できないご意見、さまざまあったわけでございます。なかなか全部正確に分類できないご意見などもございましたので、ここで一応全体の傾向として取りまとめさせていただいたものでございますので、これが完全にすべての皆様のご意見を代表するというような形になっているわけではないというふうに考えておりますが、おおむね、そのご意見の傾向ということでお示しをさせていただいております。

この下のほうに、それぞれ、左側の図15というのが滑走路増設案についてご意見をいただいた方の中の意見の分類、それから、右側の図16、これは新空港につきましてご意見をいただいた方の意見の分類ということで、この円グラフにかかせていただいたような結論になっているということでございます。こういう傾向になっているということが言えるのではないかと考えております。

それから、31ページ以降の部分が今回のステップ4の活動の分析ということでございまして、今回のステップ4の活動が果たして当初の目標などから考えて適切のものであったのかどうかということについての自己分析をしております。大きく、ポイントとしては二つあるわけでございますけれども、一つ目は、PI活動というものは、当初決めました実施計画にのっとって適切に行われたかどうかということ、それからもう一つは、市民の皆様に情報を十分に周知し、幅広い意見収集ができたかどうかということだと思っております。

これらの点につきまして、それぞれ点検整理をしたものでございます。個別の細かい説明につきましては省略をさせていただきますけれども、40ページをお開きいただきますと、

まとめといたしまして、先ほど紹介いたしました属性の統計でございますとか、あるいはPI活動の実績などを総合的に勘案いたしましてまとめとさせていただきますけれども、今回のPI活動の評価といたしましては、適切に実施でき、当初の目標は達成できたのではないかとこのように考えておるところでございます。

大変雑駁でございますが、以上が実施報告書の概要ということになります。この実施報告書と、委員の皆様が直接私どもの活動を見ていただいた際の印象などをもとにいたしまして、1月19日に福岡空港調査PI有識者委員会でご審議をいただき、評価書をいただいたというところでございます。

続きまして、今度は別添2という資料でございますが、若干薄目の束でございますけれども、こちらが福岡空港の総合的な調査に係るPI（ステップ4）の実施結果に関する評価等についてということでございます。これは、この表題にもございますように、福岡空港調査PI有識者委員会の評価書でございます。こういった評価書をいただいたということにつきまして、ご説明させていただきたいと思っております。

まず、1枚目の1、評価というところでございますが、今回のPI活動については適切である、PIの目標は達成されたという評価を最終的な結論としていただいたというところでございます。

また、その評価自身とは別に、実施報告書や今後の取り組みに対しての助言もいただいたところでございまして、この助言につきましては、評価の下の2というところにあるわけでございます。一つ目は、実施報告書について誤解のない表記ということで、あまり難しい言葉とか、なかなかわかりづらいところがございましたので、そこにつきましては修正させていただいて、わかりやすく、いい表現にするように心がけたところでございます。それから、二つ目は、今後の取り組みについてということでございますけれども、今般新たに実施させていただいた市民の皆様相互の間での意見交換、こういったものなどにつきまして、非常に委員の方々から評価をいただいたということでございます。このような、市民の皆様の理解をより深めるような手法につきまして、今後もまたこのような形で市民の皆様の意見を聞くような機会がある場合には、今回の経験を生かしてまたやってほしい、より充実した方法でやっていただきたいということで、そういった助言をいただいているわけでございます。

このような有識者委員会の方々の評価と私どもで考えておりますおおむね達成できたのではないかとこのように評価が一致いたしまして、結論といたしましては、今回適切に実施できたのではないかとこのように評価でいいのではないかと考えているわけでございます。

これらを受けまして、福岡空港調査連絡調整会議といたしましては、今回のPI（ステップ4）を終了するのが適切ではないかと事務局として考えているところでございますが、このあたりにつきましてご議論をいただきまして、結論をいただければと考えておるところでございます。

なお、最後でございますが、厚いファイルにいろいろと書いてございますけれども、これは、実際の実施報告書で寄せられたデータを集めたものでございまして、福岡空港の総合的な調査に係るPI（ステップ4）の実施状況を整理したものとしまして、参考資料としてつけさせていただいているところでございます。

資料の説明については以上でございます。よろしくお願いたします。

**事務局：**

それでは、マスコミの方に冒頭お願いしましたように、テレビカメラの撮影はここまでとさせていただきます。以降の撮影はご遠慮をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

**佐藤副局長：**

それでは、審議に入りたいと思います。

ただいま、資料1のステップ4について、また、実施報告書についての説明がございました。ただいまの説明についてご意見、どうぞよろしくお願いいたします。

**高田副市長：**

ちょっと2点ほどお尋ねしたいと思います。今回ステップ4ということで調査があったわけでございます。次のステップ、どう動いていくのかということにもなるんでしょうけれども、構想段階に移るとということの中での話を少しお聞かせいただければと思います。空港整備の国のガイドラインによりますと、構想段階については、複数案の中から一つの案を選定する段階と位置づけられているというふうな記述があるわけでございますけれども、このステップ4で示された代表案以外の案についても、その中で検討がなされるのかどうかということが1点と、私どもの福岡空港よりも先行提起されている那覇空港の検討状況につきまして、20年度から構想段階に入っていると伺っております。現在の検討状況といったものについてはどのようになっているのか、P I等も含めてちょっとお聞かせいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

**佐藤副局長：**

1点目は構想段階での対象とする方策の案が今回のステップ4で出された内容とどう関係していくのかということについて。2点目は、那覇空港P Iの現在の検討状況ということで。2点目はわかる範囲でのお答えでいいですか。

**幹事：**

1点目については私のほうからご説明させていただきます。

緑の紙ファイルにステップ1から4までのP Iレポートがついているかと思っております。最後のステップ4のP Iレポートをご覧いただきたいんですが、例えば、11ページのところで、抜本策の詳細な検討ということで、新空港の場合に幾つかゾーンがありまして、志賀島・奈多ゾーンと三苦・新宮ゾーンとありまして、その中から幾つかの配置案を検討して、一応三苦・新宮ゾーンの12ページに書いてあるような代表案というのを選出いたしまして、これを中心に現空港の増設案と比べたということになっています。これはあくまでも代表案ということであって、その後、三苦・新宮ゾーンのこの配置に限定して次のステップで検討が進められるということでは必ずしもないですということでしたので、詳細な、例えば自然条件の調査などを踏まえて配置案等についてはまた改良といいますか、変更が加えられる可能性はあるというふうに認識をしております。これは、現空港の増設案でも同様であろうと思います。8ページのところに、西側配置の滑走路間隔210メートルの

改良案とありますけれども、これもまだ一応ポンチ絵のレベルでございますので、これを中心にして細かな検討した上で具体的な配置案が固まっていくというふうに認識をしております。

**佐藤副局長：**

よろしいですか。増設か新空港かでなくて、もう一つ何か別なという意味の質問だったんですか。

**高田副市長：**

構想段階で検討される際に、後戻りというんじゃないですけれども、ここで集約したということだけを前提で動くのかどうかということをちょっとお尋ねしたかったんです。

**幹事：**

それでは、2点目の那覇空港のP Iの状況について、大阪航空局からご説明申し上げたいと思います。

那覇空港につきましては、平成19年度までに総合的な調査のパブリック・インボルブメント、ステップ1、2、3というのを終了いたしまして、平成20年度には構想段階のパブリック・インボルブメントというものを実施しておるところでございます。昨年12月15日に、このパブリック・インボルブメントを開始いたしまして、来月2月の6日に終了する予定ということでございます。その中では、現空港の滑走路に対してどれだけ離すかという2案の滑走路案を提示いたしまして、P Iをやっているというところでございます。年度内には結論を得たいという方向で考えております。

以上でございます。

**佐藤副局長：**

よろしいですか。

ほかにご意見ございませんか。

**片平局長：**

今回のP Iにつきましては、先ほどご説明いただきましたように、大変新しい取り組みなんですけれども、精力的にいろいろな取り組みをやっていただき、なおかつ、その成果も、当初の目的に照らして十分あったということで、大変ご苦労さまでした。

それで、具体的な話ですけれども、先ほどは取り出してのご説明はなかったんですが、この別添1のステップ4の実施報告書、この14ページには、平行誘導路の二重化についてということで、これも今回のP Iの中で意見を聞いていただいたわけでございますけれども、この報告書を拝見させていただきますと、意見に対する考え方として、事業実施に向けた検討を進める予定としておりますということになっておりますけれども、私どもも現在の福岡空港の利用しやすさの水準を上げていくために、サービスレベルを上げていくために、ぜひできるだけ早く実施をしていきたいというふうに考えているところです。現実には事業実施に向けての検討を進めるに際しては、地元の県の方々、市の方々のいろいろな

場面でのご支援やご協力、一緒になってやっていただくというような部分が不可欠になってくるんじゃないかと思っておりますけれども、そういう面でぜひご支援、ご協力をお願いしたいと思いますが、いかがなものでしょうか。

**佐藤副局長：**

平行誘導路二重化、もし、意見をいろいろと聞いてきましたけれども、事業実施に当たっては、今、片平局長のお話では、地元の協力なくしてはできないと思うので、そのあたりどういう感想といいますか、協力体制を取れるのかどうかというご意見でした。

**中島副知事：**

当面の対策として、私どもは有効な事業じゃないかと思っておりますので、早期完成に向けて県もできるだけ協力していきたいと思っております。

**片平局長：**

どうぞよろしく申し上げます。

**高田副市長：**

私も、この平行誘導路の二重化ということにつきましては、この中でも一つ上げられていますし、当面の対応策として事業実施に向けた検討を進めていくことについて、私どもも協力していきたいと思っております。また、事業実施に当たりましてでございますけれども、このPIステップ4のレポートに先ほどありましたように、国内ターミナルビルのセットバック等の問題等が出てくるんじゃないかと思っておりますが、これらにつきましては、ターミナル自体の利便性がどうなるのか、あるいは、ターミナル前の交通対策等いろいろな課題があるんじゃないかと思っております。こういう観点から、ビル会社などとも十分調整を行っていただくと同時に、本市の関係部局とも十分事業内容につきまして情報提供、調整につきまして、ひとつよろしくお願い申し上げたいと思います。

**片平局長：**

こちらこそ、どうぞよろしくお願いいいたします。

**佐藤副局長：**

ありがとうございました。

そのほか、よろしいでしょうか。

私のほうからですが、別添1、2を説明していただきましたが、別添2のところにありますように、福岡空港調査PI有識者委員会の委員長から、この福岡空港調査連絡調整会議に対して、今回のステップ4につきましては適切に実施されたと、そして、当初の目標は達成されたというふうに評価をいただいております。引き続き、今後、構想段階に入るに当たっては、さらにこういったところに留意すべきという助言もいただいております。

そういったことを踏まえまして、今回、この福岡空港調査連絡調整会議として、福岡空



港調査 PI 有識者委員会のコメントも踏まえて P I (ステップ 4) を終了するというところで締めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」との声あり〕

**佐藤副局長：**

ありがとうございます。

それでは、今回をもちまして、P I (ステップ 4) を終了させていただきたいと思えます。

次に、議事の(2)、その他ということでございます。事務局のほうから何かありましたらお願いしたいんですが。平成15年7月からスタートした福岡空港の総合的な調査であります。その際の P I の実施に当たって、この福岡空港調査連絡調整会議が担う役割として、P I を実施すること自身が一つの役割、もう一つは方向性案を作成する役割と、こういうのが我々が担うべきこの会議での役割だったと思えますが、そういった意味では両方とも無事達成できたかなと思えますが、福岡空港調査連絡調整会議としての今後の予定などについて、その他の中で、もしご披露できるのであれば、事務局のほうからよろしく願いいたします。

**幹事：**

今、座長からご指摘いただいたように、この福岡空港調査連絡調整会議の役割というのは P I そのものを実施する役割、それから、その P I の中で方向性案というのを作成してお示しするというような役割の 2 点を担っていたということでございます。その前提となる各種の調査については、国と地元の県、市、国は私ども九州地方整備局と大阪航空局になりますけれども、その 2 機関と県と市で分担しながら調整をしていくと。それを踏まえて P I を実施し、その中で方向性案というのをお示していくというのが、役割だったと認識をしております。

そういうことからいたしますと、先ほどステップ 4 を終了するという結論をいただいたわけでございますので、P I の実施については 1 から 4 まで無事に終わったということ、それから、これまでのステップ 4 の中で、方向性案というのも二つの案について作成をし、お示しをしたということでございますので、福岡空港調査連絡調整会議に課せられていた役割というのは、実質的にこのステップ 4 の終了をもって終了したというふうに考えております。特に、ステップ 4 におきましては、抜本的な対応方策の方向性案としまして、滑走路の増設と、それから新空港につきまして、賛否を含めた様々なご意見をいただきました。先ほど事務局から説明したとおりでございます。その結果、抜本方策自体が不要といったようなご意見もありましたけれども、ごく少数でありまして、いずれかの対応策が必要であるということについて、この一連の P I の中で、おおむねのご理解といえますが、コンセンサスが得られたということではないかというふうに考えております。そういうことで、福岡空港調査連絡調整会議の役割というのはここで一応終了したというふうに考えておるわけでございます。

今後は、滑走路の増設と新空港のどちらにするのかというものの絞り込みというのが必

要になりますけれども、これにつきましては、この福岡空港調査連絡調整会議ということではなくて、これまでのP Iで寄せられましたいろいろなご意見とか、地域の意思というのを踏まえた上で、最終的には空港の設置管理者であります国が、次の段階に進むかどうか、次の段階というのは、構想あるいは施設計画の段階でございますけれども、そこに進むのかどうかを判断するということだというふうに考えております。

したがって、福岡空港調査連絡調整会議としましては、今後、事務的にこれまでのステップ1から4を踏まえた総合的な調査のまとめの報告書をつくりまして、なるべく早く、できれば2月ごろに公表したいというふうに考えております。

以上です。

**佐藤副局長：**

ありがとうございました。

今の事務局の説明を簡単にまとめますと、まず1点目は、ステップ4の終了をもって福岡空港調査連絡調整会議の実質的な役割は終了した。それから、2点目は、ステップ4までにおいていろいろのご意見をいただきましたが、滑走路増設か新空港かのいずれかの対応策が必要ということについてはおおむね理解が得られたと。今後は福岡空港調査連絡調整会議の手を離れて、これまで寄せられたP Iでの意見や地域の意思を踏まえた上で、最終的には国が次の段階に移行するかどうかの判断を行うと。3点目は、これまで行ってきました総合的な調査全体のまとめとして事務的に報告書を作成し、それを作成した時点で公表するというような3点だったかと思っておりますけれども、よろしいですか。以上のようなことでございました。

質問とか何かコメントがございましたら、よろしくお願いたします。

よろしいですか。それでは、今後の福岡空港調査連絡調整会議に残された課題は、これまでの調査のまとめをして公表することということでございますね。ありがとうございました。

ほかに、その他、何かございますか。よろしいですか。

それでは、非常に長年にわたってのP Iの実施、事務局の方、また、関係する皆様方、ほんとうに大変ご苦労さまでございました。

以上をもちまして、本日の議事を終了するとともに、福岡空港調査連絡調整会議としての会議を締めたいと思います。

では、事務局のほうに進行をお返しいたします。よろしくお願いたします。

**(3)閉会**

**事務局：**

どうもありがとうございました。

これをもちまして、本日の福岡空港調査連絡調整会議を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。